

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3148417号
(U3148417)

(45) 発行日 平成21年2月12日 (2009. 2. 12)

(24) 登録日 平成21年1月21日 (2009. 1. 21)

(51) Int. Cl.

A 4 7 G 25/28 (2006. 01)

F 1

A 4 7 G 25/28

D

評価書の請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号 実願2008-8379 (U2008-8379)
 (22) 出願日 平成20年11月28日 (2008. 11. 28)

(73) 実用新案権者 594068974
 テンタック株式会社
 東京都墨田区両国 4 丁目 9 番 7 号
 (74) 代理人 100066865
 弁理士 小川 信一
 (74) 代理人 100066854
 弁理士 野口 賢照
 (74) 代理人 100068685
 弁理士 斎下 和彦
 (72) 考案者 橋本 邦彦
 東京都墨田区両国 4 丁目 9 番 7 号 テンタ
 ック株式会社内

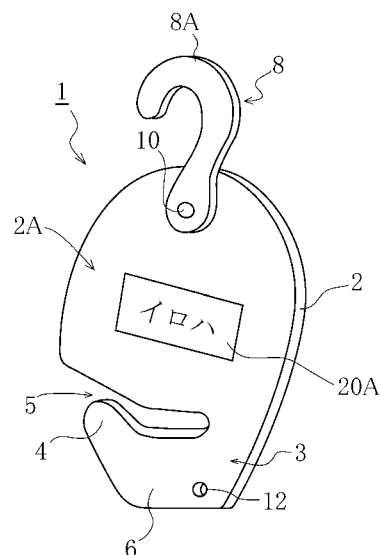
(54) 【考案の名称】ズボン吊具

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】ズボンの着脱が簡便なズボン吊具を提供する。

【解決手段】板状の本体 2 の上方中心部に掛け部 8 と、文字などの表示部 2 A とを備え、更に、本体 2 の下方にズボン P のベルトループ L を吊り下げる吊り部 3 が設けられており、前記吊り部 3 は、ベルトループ L が挿通する切欠部 5 と、この切欠部 5 の下方中心部にベルトループ支持部が形成され、更に、その支持部より延長され先端側が上方に傾斜した掬上部 4 が設けられている。

【選択図】図 4



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

板状の本体（２）の上方中心部に掛け部（８）と、文字などの表示部（２Ａ）とを備え、更に、本体（２）の下方にズボン（Ｐ）のベルトループ（Ｌ）を吊り下げる吊り部（３）が設けられており、

前記吊り部（３）は、ベルトループ（Ｌ）が挿通する切欠部（５）と、この切欠部（５）の下方中心部にベルトループ支持部（６）が形成され、更に、その支持部（６）より延長され先端側が上方に傾斜した掬上部（４）が設けられていることを特徴とするズボン吊具。

【請求項 2】

前記掛け部（８）は、フックまたは開孔部または横向きスリットのいずれかであることを特徴とする請求項 1 記載のズボン吊具。

【請求項 3】

前記本体（２）はボール紙あるいは樹脂で形成され、フックは樹脂で形成されていることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載のズボン吊具。

【考案の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本考案は、ズボン吊具、特にジーパンの吊具に関するものである。

【背景技術】**【0002】**

一般的に紳士服等のズボンの購入の際には、店員に頼んで取り出してもらうのが普通であり、複数本のズボンを取り出して体にあてがってみたり、試着したりすることは気が引けるので、適当なものを妥協して選ぶこともあった。

【0003】

また、紳士服等のズボンに皺がつかないように、針金等の支持棒をズボンのベルトループに挿通させ、その支持棒でベルトループを吊り下げ、ズボンが伸びた状態で展示することのできるハンガーが提案されている（例えば、特許文献 1 参照）。

【0004】

しかしながら、前記ズボンハンガーは、ズボンの胴回りに所定間隔で設けられている複数のベルトループの全部に支持棒を挿通させなければならず、ズボンを着脱させる手間がかかるものである。

【0005】

一方、デニム生地のパンツ（所謂ジーパン）は、皺や型くずれが発生しにくいことから、紳士服等のズボンとは異なり、ハンガーに設けた複数個のハサミ（摘み具）で把持されて吊り下げられていることが多い。しかしながら、ズボンの着脱の度に複数個の摘み具を操作するという手間がかかる。

【特許文献 1】特開平 10 - 04472 号公報**【考案の開示】****【考案が解決しようとする課題】****【0006】**

本考案は、前記課題に鑑みてなされたものであって、ズボンの着脱が簡便なズボン吊具を提供するものである。

【課題を解決するための手段】**【0007】**

本考案に係るズボン吊具は、次のように構成されている。

【0008】

1) 板状の本体 2 の上方中心部に掛け部 8 と、文字などの表示部 2 A とを備え、更に、本体 2 の下方にズボン P のベルトループ L を吊り下げる吊り部 3 が設けられており、前記吊り部 3 は、ベルトループ L が挿通する切欠部 5 と、この切欠部 5 の下方中心部に

10

20

30

40

50

ベルトループ支持部 6 が形成され、更に、その支持部 6 より延長され先端側が上方に傾斜した掬上部 4 が設けられていることを特徴としている。

【 0 0 0 9 】

2) 前記掛け部 8 は、フックまたは開孔部または横向きスリットのいずれかであることを特徴としている。

【 0 0 1 0 】

3) 前記本体 2 はボール紙あるいは樹脂で形成され、フックは樹脂で形成されていることを特徴としている。

【考案の効果】

【 0 0 1 1 】

10

板状の本体 2 の上方中心部に掛け部 8 と、文字などの表示部 2 A とを備え、更に、本体 2 の下方にズボン P のベルトループ L を吊り下げる吊り部 3 が設けられており、前記吊り部 3 は、ベルトループ L が挿通する切欠部 5 と、この切欠部 5 の下方中心部にベルトループ支持部 6 が形成され、更に、その支持部 6 より延長され先端側が上方に傾斜した掬上部 4 が設けられていることにより、水平方向に設けられている吊り棒 R に掛け部 8 を引掛けて陳列することができると共に、ズボンのベルトループ L を吊り部 3 に引掛けるだけでズボンを吊すことができ、また、吊り部 3 をベルトループ L から外すだけでズボン P を取り外すことができるので、簡便な操作でズボン P の着脱が行える。

【考案を実施するための最良の形態】

【 0 0 1 2 】

20

本発明に係るズボン吊具は、例えば、図 2 に示すように、水平方向に設けられている吊り棒 R に掛け部 8 を引掛けるだけでズボン P を陳列することができるものであり、そのズボン P のベルトループ L が吊り部 3 に挿通されて吊り下げている。

【 0 0 1 3 】

ズボン吊具 1 は掛け部 8 を介して吊り棒 R に着脱自在に取り付けることができ、ズボン P は吊り部 3 にベルトループ L を挿通させて着脱自在に吊り下げることができるようになっている。

【 0 0 1 4 】

以下、図面を参照し、本考案に係るズボン吊具について、その実施態様を説明する。

【実施例 1】

30

【 0 0 1 5 】

図 1 に示す本発明に係るズボン吊具 1 は、板状の本体 2 の上方中心部に掛け部 8 と、文字などの表示部 2 A とを備え、更に、本体 2 の下方にズボン P のベルトループ L を吊り下げる吊り部 3 が設けられている。

【 0 0 1 6 】

また、前記吊り部 3 は、ベルトループ L が挿通する切欠部 5 と、この切欠部 5 の下方中心部にベルトループ支持部 6 が形成され、更に、その支持部 6 より延長され先端側が上方に傾斜した掬上部 4 (ベルトループの脱落防止部) が設けられている。

【 0 0 1 7 】

40

更には、前記掛け部 8 と支持部 6 とは、本体 2 の重心を上下に通る直線 K 上に形成されており、ズボン P を吊り部 3 に引掛けた状態において、支持部 6 が水平状となると共に掬上部 4 が上方に傾斜し、掬上部 4 によりベルトループ L が脱落しないようになると共にベルトループ L が支持部 6 に安定的に支持されるようになっている。

【 0 0 1 8 】

また、例えば、図 7 に示すように、ズボン P が吊り下げられた状態において、両端に嵌着部を備えた系状の留め具 30 が取付穴 12 とベルトループ L とに挿通され、盗難防止機能を発揮させることができる。また、留め具 30 に IC タグを取り付けたりすることでもできる。更に、小型 (5 c m ~ 8 c m 程度、数ページ) の商品説明書やアンケート用紙などを取り付けてもよい。

【 0 0 1 9 】

50

前記本体 2 はボール紙（板紙）で形成され、フック 8 A は樹脂で形成されている。一例としては、本体 2 は、スチール製切り歯が合板などに植設された打ち抜き型によりボール紙を打ち抜いて製造することができる。また、フック 8 A は、ポリエチレン樹脂、ポリプロピレン樹脂、ABS樹脂、アクリル樹脂などが金型に入れられて形成されている。フック 8 A と本体 2 とは、リベット状の連結ピン 10 により連結されている。

【0020】

本体 2 は、ズボン P を吊り下げた状態で手に持ったときに、しっかりとつかむことのできる大きさに形成されており、本実施例においては、幅 13 cm、高さ 15 cm、厚さ 0.5 cm となっている。

【0021】

図 2 に示すズボン吊具 1 は、本体 2 の上方中央部に開孔部 8 B を形成して掛け部 8 としたものの一例を示すものである。この図 2 中の符号で、前述のズボン吊具と同一の符号は同一部材を示している。

【0022】

このように構成された本発明に係るズボン吊具 1 は、図 2 及び図 3 に示すように、掛け部 8 を水平方向に設けられている吊り棒 R に引掛けて使用される。前記吊り棒 R は、ズボン吊具 1 の掛け部 8 が係合して位置決めされるように溝 R 1 が所定間隔（例えば、10 ~ 20 cm 間隔）で設けられているので、掛け部 8 がフック 8 A である吊具 1 の場合は、着脱自在に吊り棒 R に複数個懸垂した状態で使用することができ、掛け部 8 が開孔部 10 である吊具 1 の場合も複数個懸垂した状態で使用することができる。

【実施例 2】

【0023】

本実施例は、図 4 に示すように、前記ズボン吊具 1 の表示部 2 A に、ズボンのサイズやブランド名などが記載されたシールラベル 20 A を貼り付けたものである。

【0024】

前記シールラベル 20 A は、例えば、他のラベルに付け替えることができるように比較的剥がしやすい接着剤（糊）が使用されている。また、商品自体の情報が記載されたラベルと、販促ラベルとを貼り付けたり、キャラクターシールなどを貼り付けたりしてもよい。

【実施例 3】

【0025】

本実施例は、図 5 に示すように、本体 2 の表示部 2 A に 2 カ所のスリット 7、7 を設け、このスリット 7、7 にラベル 20 B を差し入れるようにしたものである。

【0026】

前記ラベル 20 B には、ズボン P の種類やサイズ、ブランド名が記載された紙製や樹脂製のものなどが使用され、適宜交換できるようになっている。

【実施例 4】

【0027】

本実施例は、図 6 に示すように、本体 2 の上方に横方向スリット 5 C を設けて、本体 2 の上部中心を鉤状に形成してフック 8 C としたものである。

【0028】

前記フック 8 C と、支持部 6 とは、本体 2 の重心を上下に通る直線 K（中心線）上に設けられており、吊り部 8（フック 8 C）を横方向に設けられている吊り棒 R に引掛けた状態において、ベルトループ L が水平状に支持されてズボン P が支持部 6 に安定的に保持されるようになっている。

【0029】

前記第 1 実施例 ~ 第 4 実施例に係るズボン吊具 1 は、板状の本体 2 の上方中心部に掛け部 8 と、文字などの表示部 2 A とを備え、更に、本体 2 の下方にズボン P のベルトループ L を吊り下げる吊り部 3 が設けられており、前記吊り部 3 は、ベルトループ L が挿通する切欠部 5 と、この切欠部 5 の下方中心部にベルトループ支持部 6 が形成され、更に、その

10

20

30

40

50

支持部 6 より延長され先端側が上方に傾斜した掬上部 4 が設けられていることにより、ズボンのベルトループ L を吊り部 3 に引掛けるだけでズボンを吊すことができ、また、吊り部 3 をベルトループ L から外すだけでズボン P を取り外すことができるので、簡便な操作でズボン P の着脱が行えるのである。

【図面の簡単な説明】

【0030】

【図 1】本考案に係るズボン吊具の概略構成図である。

【図 2】本考案に係るズボン吊具の使用状態を示す図である。

【図 3】本考案に係るズボン吊具が吊り棒に複数個懸垂している状態を示す図である。

【図 4】第 2 の実施態様に係るズボン吊具の概略構成図である。

10

【図 5】第 3 の実施態様に係るズボン吊具の概略構成図である。

【図 6】第 4 の実施態様に係るズボン吊具の概略構成図である。

【図 7】本考案に係るズボン吊具の他の使用状態を示す図である。

【符号の説明】

【0031】

1 ズボン吊具

2 本体

2 A 表示部

3 吊り部

4 掬上部

20

5 切欠部

5 C スリット

6 支持部

7 スリット

8 掛け部

8 A , 8 C フック

8 B 開孔部

10 連結ピン

12 取付穴

20 A , 20 B ラベル

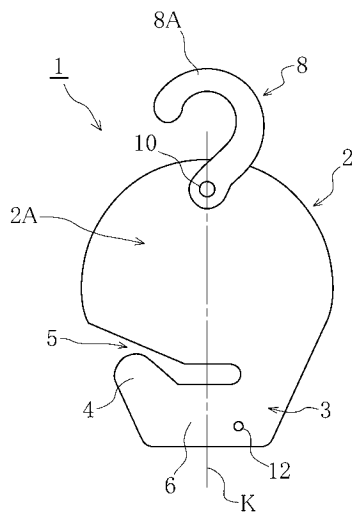
30

30 留め具

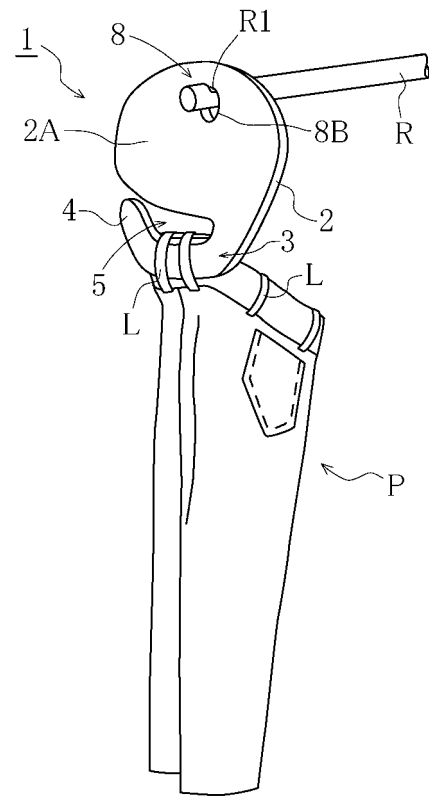
R 吊り棒

R 1 溝部

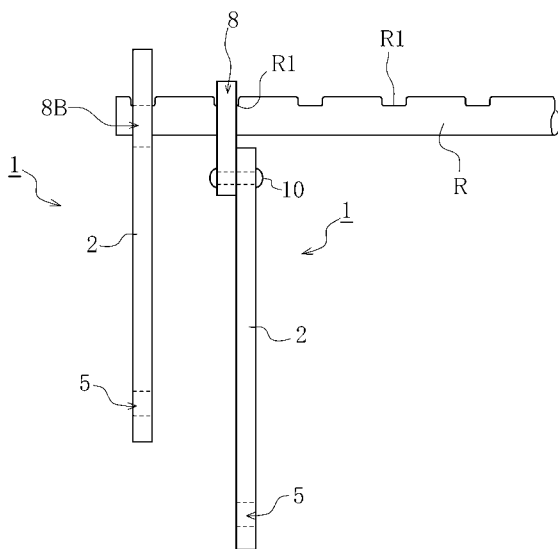
【図 1】



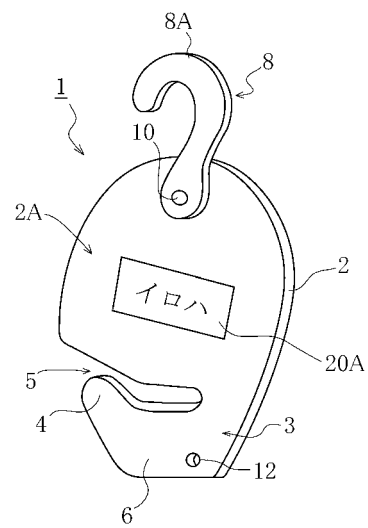
【図 2】



【図 3】



【図 4】



【 図 6 】

